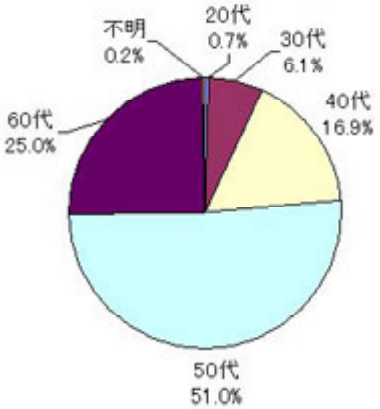
データクリクリップ０５

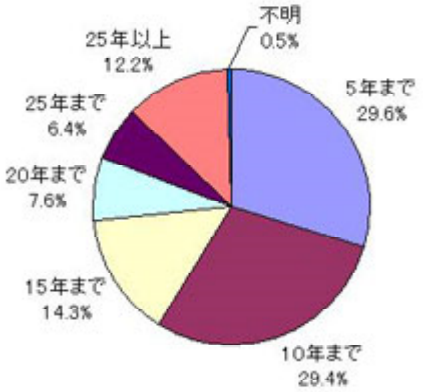
劣化する生活、改善は企業・行政の責任
全自交労連２００９春闘、生活・労働実態調査

2009年春闘、生活・労働実態調査
グラフ分析：全自交労連は昨年末に実施した「２００９春闘、生活・労働実態調査」の集計をまとめました。それによると平均年収は昨年より２３万円程度低下し、かろうじて３０９万円でした。昨年の集計では一昨年と比べ年収低下に歯止めをかけ、一定の反転を示していましたが、運賃改定にもかかわらず一昨年以降の不況の進行を反映して、年収の底割れ現象を示すという厳しい生活実態を顕著にしています。とくに東京の落ち込みが際だっていて４００万円台を割り込んでいます。昨年９月以降の一段の景気後退・世界同時不況の進行の懸念からも、０９春闘の重要性はますます強くなっています。

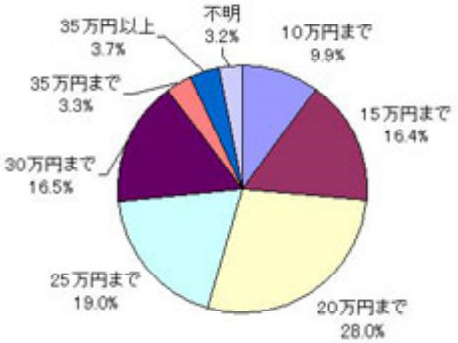
Q1 年 齢
(平均53．87歳)



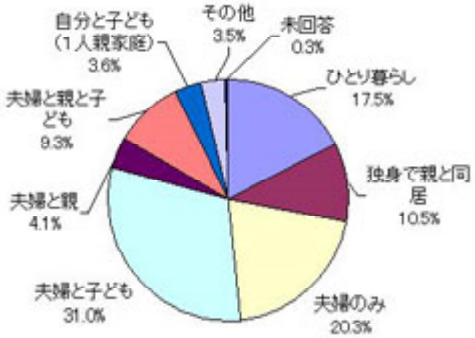
Q2 勤続年数
(平均11．93年)



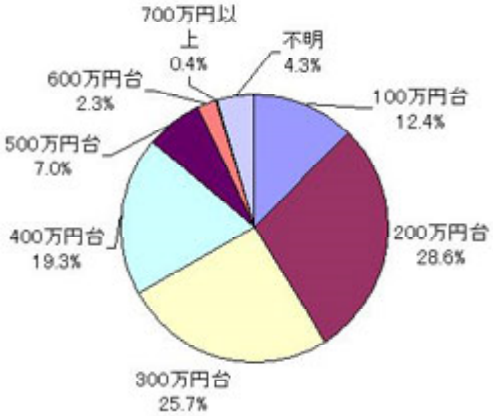
Q3 1ヶ月の生活費
(平均215，083円)



Q4 世帯構成

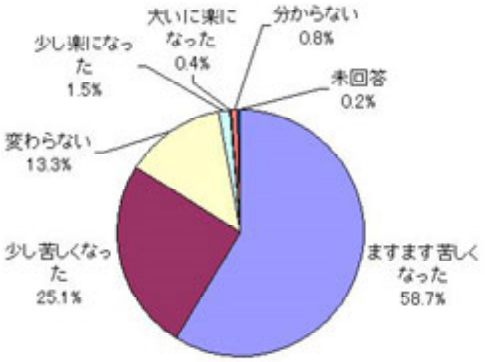


Q5 年間所得
(平均3，097，999円)

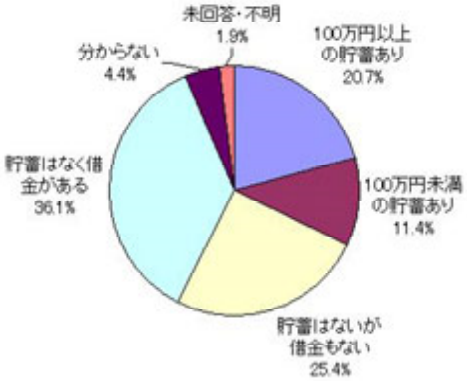


Q6 世帯当たりの年間所得
(平均年収4，970，484円)

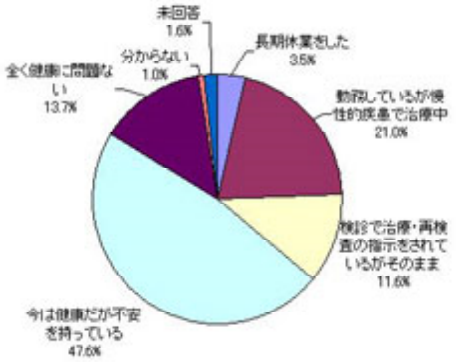
Q7 一年間の生活状況



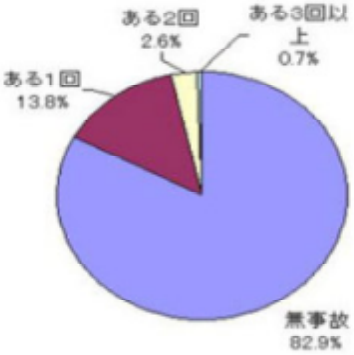
Q8 家計の貯蓄状況



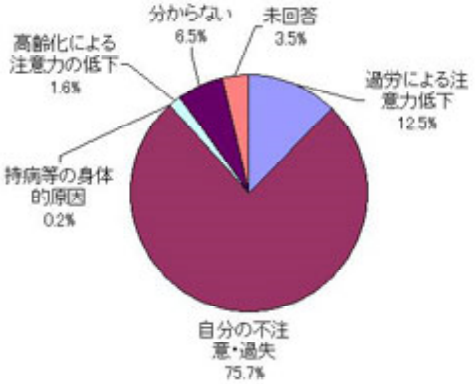
Q9 1年間の健康状態



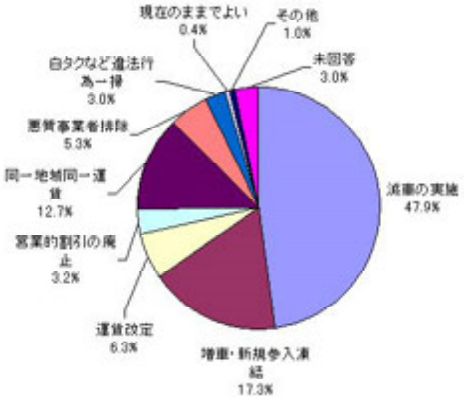
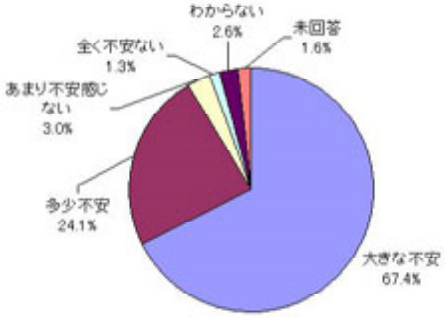
Q10 第一当事者としての事故の有無
（平均回数0．22回）



Q11 事故の原因はなんだと思うか



Q12 規制緩和見直しでまずやることは何か



Q13 定年退職後の生活展望